



身近な自然の観察・記録活動 石神井川緑道版

2022.11.10

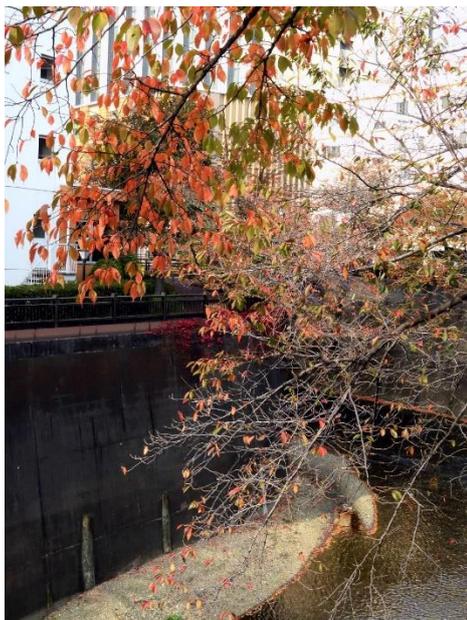
一人ひとりの自主活動 だれでも参加できます

活動：月2回(第二木曜日・第四金曜日)10:00より(雨天中止)
コース：帝京大学付属病院北詰・御成橋たもと → 金沢橋
問合せ・連絡先：090-8646-9757 木村松夫 com-matchan@hotmail.co.jp

11、12月の石神井川観察は、11/25(金)、12/8(木)、12/23(金)

9:30JR 社宅前街路の観察 10:00 帝京大学病院北側の御成橋たもとから再出発

「秋」らしさの探し方



10/28の前回観察よりは木々の紅葉が進んだとはいえ、きれいだなあ后感嘆する場面はよく探さないと見つかりません。このソメイヨシノもイマイチなのですが、まあこれで



満足しましょう。葉が落ちた枝には来年春の蕾が付いていますが、寒い日を経ないと咲かないのがソメイヨシノ。さて、この石神井川名物「桜並木」の来春はどうなることでしょうか。

紅葉ばかりでない、秋の見どころ

このことも10/28のレポートでお伝えしましたが、11/10には今シーズン初めて川面に渡り鳥の姿を見ました。写真はコガモ。マガモもやってきました。左下のノイバラの実が赤く美しくなりました。右上は増えすぎると他の植物の生育を邪魔してしまうセイタカアワダチソウですが、これだけたっぷり咲いているときれいです。右下のサルスベリの実。これはあまりきれいではありません。





←石神井川緑道の金沢橋近くは赤塚公園とは比べ物にならない**キュウリグサ**の大きな群生地です。毎年冬のはじめにはびっしりと生えているのですが、せっかく咲いても、年末にきれいに刈り取られて一度全滅、年を越えてから再復活するという受難の草。今シーズン初の開花観察ですが、この先、草刈りがないように祈るばかり。

植物似た者どうしの秋版

この観察活動の主宰者・木村は実は「確信をもっていい加減なことを言う」ので有名なのですが、最近植物に詳しくきちんと調べてくれるお仲間が加わって頼もしい限りです。

左の2枚の左は**イヌタデ**の大型化したものですが、右のもともと大きいのは**オオイヌタデ**だと、その人がきちんと分かりやすく説明してくれました。



秋のキク科の花でよく似ている2種。円錐状の頭花に舌状花が見られるのが**ヒメムカシヨモギ**（左）、頭花が小さめで舌状花がないのが右の**オオアレチノギク**。



今年はイネ科の植物の大型化が目立ったのですが、左の**メヒシバ**もかなり大型。だからと言って右の花はメヒシバではなく**ススキ**の花序（花が並んだ「花穂」）がまだ開ききっていないものでした

花がなくても考えることたくさんあり

その他、冬の花ヒイラギナンテンの蕾が観察される一方で、春を待つ葉の展開これなあに→殺風景に見える緑道も考えるべきことがたくさんあった秋の一日でした。

